

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 33 号:2014 年 9 月－11 月期】

* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

社会経済概況

暫定データによれば 2014 年 1～9 月期のウズベキスタンの経済成長率は 8.1%であった。成長率はそれぞれ、鉱工業生産 108.4%、農業生産 106.8%、固定資本投資額 110.7%、建設工事 118.9%であった。国家予算の遂行結果は、GDP 比 0.1%の黒字であった。インフレ率は予想の範囲に収まった。

この期間の貿易高は 213 億ドルとなり、前年同期比 0.6%の増加であった。内訳は、輸出高が 111 億ドル（0.2%増加）、輸入高が 102 億ドル（0.9%増加）であった。貿易黒字は 9 億 1,680 万ドルとなった。

中小企業の起業数は 20,200 社であった。中小企業の産業全体における比率は、企業数で 27.9%から 31.1%に、投資で 32.2%から 33.2%に、雇用で 76%から 76.5%にそれぞれ伸びた。

2014 年 1～9 月期は 100 億ドルに相当する金額が投資された。この投資総額のうち 21 億ドル（20.7%）余りが対内投資・融資であり、そのうち対内直接投資が 17 億ドル（22.3%の増加）であった。2014 年年初より各種の地域社会経済発展プログラムの枠内で鉱工業分野の 4,271 件のプロジェクトが実施された。そのうち建材工業（1,333 件）、食品工業（1,152 件）、軽工業・織物工業（939 件）、家具・紙工業（376 件）、化学・石油化学工業（310 件）その他の分野において 2,715 の生産施設が新たに操業を開始した。

2014 年と 2015 年の経済成長予測

ウズベキスタン政府は 2014 年の GDP 成長率を 8.1%程度と予測している。欧州復興開発銀行（EBRD）の予測によれば 2014 年のウズベキスタンの GDP 成長率は 7.5%である。これについては「EBRD 管轄国における地域経済見通し」8 月報告書が言及している。この予測は、EBRD の専門家らの 5 月の予測と比べて変わっていない。2015 年の経済成長率は 7.6%程度と予測されている。2014 年のウズベキスタンのインフレ率は 11.4%程度と予想されている。

アジア開発銀行（ADB）は、ウズベキスタンの 2014 年の GDP 成長率予測を本年 7 月に発表した 8%から 7.6%へ下方修正した。ウズベキスタンの 2015 年の GDP 成長率は 7.1%になると予測され、前回発表された 7.8%から下方修正された。ADB の専門家らは、ウズベキスタンの 2014～2015 年の経済は、主要な貿易相手国、特にロシアの市況動向に左右されるであろうと見ている。2014 年と 2015 年のインフレ率はこれまでと変わらずそれぞれ 11%および 10%と予測されている。

世界銀行は、2014 年のウズベキスタンの GDP 成長率予測を本年 6 月に発表した 7%から 7.9%に上方修正した。世界銀行の専門家らはまた、2015 年のウズベキスタンの GDP 成長率予測も前回の 6.7%から 7.5%に上方修正した。世界銀行の報告書によれば、本年下半期はウズベキスタン政府の輸出品目多様化策と内需刺激策が今年のウズベキスタン経済の成長を押し上げることになる。しかし、綿花と金の価格低下、主要な輸出市場、特にロシアにおける経済状況の悪化、さらに国民が受け取る送金の減少が 8%台の GDP 成長率の達成を困難にしている。

一方、IMF は、ウズベキスタンのロシアに対する経済的依存度は中央アジア諸国の中で最も低い点を指摘している。IMF のデータによると、ウズベキスタンのロシアに対する依存度は輸出で 3%、輸入で 3～10%である。IMF の指摘によれば、送金と対内直接投資に関するウズベキスタンのロシア連邦依存度は 3%未満である。ウズベキスタンはまた、中央アジア諸国の中で唯一経常収支の黒字を維持している。2000 年～2010 年のウズベキスタンの経常収支黒字は平均で GDP の 5.1%であった。IMF の予測によれば、2014 年と 2015 年の経常収支黒字はそれぞれ 0.1%および 0.5%となる。

2014 年年初以降、ウズベキスタンでは 325 の外資出資企業（合弁）が登記された。合弁が登記された主な地域はそれぞれ、タシケント市 222 社、タシケント州 31 社、フェルガナ州 17 社、サマルカンド州 13 社、ジザク州 12 社、ナヴォイ州 7 社、スルハンダリヤ州およびシルダリヤ州がともに 5 社であった。外資の国別で見ると、中国資本が出資して設立された企業が最も多く 85 社を数え、そのほかロシア資本 53 社、英国資本 28 社、トルコ資本 22 社、韓国資本 27 社、インド資本 12 社、カザフスタン資本 11 社等々であった。新たに設立された外資出資企業を分野別で見ると、最も多かったのは鉱工業分野の 171 社であり、そのほか商業・飲食業分野 72 社、農業分野 13 社、建設 10 社、輸送・通信 8 社、その他の製造分野 32 社、保険・体育・スポーツが 16 社であった。2014 年 10 月 1 日現在、登記された外資出資企業の総数は 4,900 社に達している。

投資政策

中小企業・個人事業主小型産業特区がウズベキスタン国内の 8 つの州に設立予定

8 つの州とは、アンディジャン州、ブハラ州、ジザク州、カシュカダリヤ州、ナヴォイ州、ナマンガン州、スルハンダリヤ州およびホラズム州である。これらの州には共

和国全体で 305.7 ヘクタールの用地が割り当てられ、特区の数が最も多いスルハンダリヤ州には 78.1 ヘクタールの用地が割り当てられる。各種の具体的な事業主体配置計画が策定される予定である。ここで生産活動を営むことを決めた事業主には、必要なユーティリティとインフラの建設資金を国が拠出するという独自の優遇措置が適用される。産業特区立地企業は入札ベースでの選抜を経て決定され、立地企業は 10 年間の借地の形で用地が提供される。一方、企業側は雇用の創出のために投資する義務を受け入れなければならない。

世界銀行・国際金融公社「Doing Business」で順位が 8 ランクアップ

ウズベキスタンは 2013 年 149 位であったが、2014 年は、電力受給（145 位、3 ランクアップ）、不動産登記（143 位、3 ランクアップ）、少数投資家保護（100 位、18 ランクアップ）、徴税（118 位、61 ランクアップ）、契約強制力（29 位、1 ランクアップ）といった基準でランキングの順位を上げた。

ウズベキスタンがアジアインフラ投資銀行の共同設立者に

10 月 24 日、アジア 21 カ国の代表が北京でアジアインフラ投資銀行（AIIB）設立に関する覚書を取り交わした。銀行の共同摂理者になった国はほかにバングラディッシュ、ブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア、中国、インド、カザフスタン、クウェート、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、オマーン、パキスタン、フィリピン、カタール、シンガポール、スリランカ、タイ、ベトナムである。銀行設立を主導したのは中国であった。中国はこれまで、AIIB 設立問題に関して多国間会議を 5 回、閣僚級会合を 1 回開催した。覚書によれば銀行の定款資本は 1,000 億ドルであるが当初の株式資本は 500 億ドルであるということ指摘しておきたい。新しいアジアインフレ投資銀行は 2015 年末までに体制を整えて業務を開始するものと期待されている。新しい銀行の本部は北京に置かれる。新銀行は主として大型インフレプロジェクトへの資本供給を担う。優先分野はエネルギー産業、輸送、物流、都市・農村インフラである。

米国とウズベキスタンの企業が経費 40 億ドルの共同プロジェクトを検討中

これについては、米国-ウズベキスタン商業会議所定例会議の枠内でタシケントに滞在中のケロリン・レム米国-ウズベキスタン商業会議所会頭が伝えた。

ウズベキスタン政府が 2015~2019 年にアラブの各金融機関より 7 億ドル超の資金借入れを計画

ウズベキスタン共和国対外経済関係・投資・貿易省によると、10 月末にタシケントで開催されたアラブ調整グループ（ACG）加盟国会議の過程でこのような資金を計上する

ことについて合意が成された。ウズベキスタン側は会議の席上、ACG から資金を借り入れて実施する予定の総額 16 億ドルに及ぶ投資プロジェクトの一覧表を提出した。これらの資金は、医療機関や大学の装備充実、普通教育学校における代替エネルギー源の導入、下水設備の改修、上水道の改善、さらに（現在建設中の）幹線自動車国道建設の完成および鉄道の電化に向けられる予定である。

エネルギー・セクター

スルギル鉱床をベースとしたウシュルトガス化学コンビナート（UKhK）の建設は一年前倒しで 2015 年 12 月に完了へ

これについては、プロジェクト当事者のうちの一社である韓国社 Lotte Chemical Corporation 代表の フ・スユン（Huh Soo-young）氏が伝えた。これまでの報道によれば、同ガス化学コンビナートの立ち上げは 2016 年末の予定とされていた。2008 年 2 月、国営持株会社ウズベクネフチェガスと韓国コンソーシアム Kor-Uz Gas Chemical Investment は、同ガス化学コンビナートを建設するために折半出資で合弁企業 Uz-Kor Gas Chemical 社を設立した。韓国社コンソーシアムには現在、Kogas, Lotte および STX Energy が加わっている。建設は 2012 年に始まった。同ガス化学コンビナートは一日当たり 45 億 m³ の天然ガスを処理して商業ガス最大 40 億 m³、同じくポリエチレン 40 万 t、同じくポリプロピレン 10 万 t および分解ガソリン約 10 万 t を生産する予定である。プロジェクトの元請業者は Samsung Engineering, GS Engineering および Hyundai Engineering の韓国各社である。

ナヴォイ鉱山精錬コンビナート（NGMK）が契約金額 35 億ドルに及ぶインド向けウラン鉱 2,000 トン供給 5 カ年契約を締結した

ウズベキスタンは、フランス、ロシアおよびカザフスタンに続いてインド市場向けウランの第 4 の供給国になる。これまでの報道によれば、NGMK は 2013 年、中央キジルクムで 3 箇所ウラン鉱山施設の建設を完了した。建設に投じた資金は約 7,500 万ドルであった。

ウズベキスタンが電力セクター向けに日本政府から 868 億 3,900 万円（約 7 億 6,000 万ドル）の借り入れへ

E. ガニエフ・ウズベキスタン共和国対外経済関係・投資・貿易大臣と藪浦健太郎外務大臣政務官は 11 月 10 日、タシケントでトゥラクラン火力発電所とタシケント熱併給発電所の建設計画ならびに電力セクター能力強化のための借り入れ 3 案件の実施に関わる書簡を交換した。両者の会談では、さまざまな分野における互惠的戦略的パートナーシップのさらなる強化、各種のハイテク共同投資計画の実施、相互貿易の推進、ウ

ズベキスタンの有望な経済セクターにおける日本の有力企業のプレゼンスの拡大に双方が関心を抱いていることが確認された。

輸送セクター

イランがウズベキスタン-トルクメニスタン-イラン-オマーン輸送回廊を利用して年間約 100 万 t の石油をウズベキスタンに供給することを提案

これについては、ロシアのメディアが在タシケント・イラン大使館の広報を引用して伝えた。2014 年 8 月初め、4 カ国の外相がこの輸送回廊の創設に関する協定の発効について覚書を取り交わした。2014 年 10 月、ウズベキスタン大統領はウズベキスタン-トルクメニスタン-イラン-オマーン-カタール国際輸送・中継回廊の創設に関する協定の実施に関する覚書を承認した。中央アジア各国とペルシャ湾岸の各港を結ぶ新しい国際輸送回廊の創設に関する協定はすでに 2011 年 4 月に締結されている。輸送回廊はイラン領土を通り、中央アジア諸国とペルシャ湾およびオマーン湾におけるイランの各港を結びつける。輸送・中継回廊の一部は、ウズベキスタン、トルクメニスタンおよびイランを結ぶ鉄道沿いを通り、一部はイランの港バンダル・アッバースとチャーバハールからオマーンの各港まで海中を通る。

ロシア向けのガス供給が減少、中国向けは増加

ウズベキスタンが今後ロシア向けの天然ガスの輸出量を減らし、減少分を中国向けの増加で補うという報道がメディアに現れた。メディアではまた、ガспロムが近くトルクメニスタンとウズベキスタンでのガスの買い付けを全面的に停止して現在有効なガス供給国際協定の破棄に向けた作業を進めると報道されている。このようにして、2021 年近くにはウズベキスタンガスの主な輸出先は中国になるかもしれない。中国向け供給は 2013 年の実績では 60 億 m³であったが、2015 年には 100 億 m³に到達するであろう。2013 年に輸出向けに供給された天然ガスは全体で約 130 億 m³であった。向こう 5～6 年、ウズベキスタンのガスの輸出可能量は最大で 150 億～160 億 m³以下となる可能性がある。

自動車セクター

GM Uzbekistan は今後数年間で複数の新モデルの生産を立ち上げる計画である

うち最初の新モデルのひとつは 2016 年中頃に市場に出る予定の次世代 Nexia セダンである。同じく 2 年後には Chevrolet Lacetti をベースにして製造される Gentra がモデルチェンジされて市場に出る。また、2017 年頃までにはミニバンと B クラスのハッチバックを生産する計画である。同社は、2018 年以降利益率の高いクロスオーバー車のラインアップを充実させる目論見である。

ロシアにおけるウズベキスタン車の 9 月の販売が 64%減少

これについては、欧州ビジネス協議会自動車製造業者委員会が伝えている。2014 年 9 月、ロシアのウズベキスタン製自動車の販売数は 2,350 台であった。前年 2013 年 9 月は 6,508 台であった。2014 年 1 月～9 月期の実績によればウズベキスタン車の販売は 27%減少した。2014 年 1 月～9 月期の販売数は、前年同期が 43,093 台であったのに対し、31,653 台であった。ロシア市場における GM Uzbekistan のシェアは、2013 年 1 月～9 月期の 2.1%から 2014 年同期には 1.8%まで縮小した。

その他のセクター

ウズベキスタンが綿花加工能力の増強を計画

国営株式会社ウズベクレフプロムは、2015～2020 年の期間に綿繊維の国内加工能力を増強し、綿繊維自体の輸出を減らすために約 10 億ドルを投じる計画である。ウズベクレフプロムは一連の省庁と共同で向こう 5 年間の共和国軽工業発展構想をまとめた。

(策定された) プログラムでは綿繊維の国内加工量を現在の 44%から 2020 年には 70%まで増やし、これに伴って綿織物製品の輸出を 8 億ドルから 15 億ドルに増やすことが見込まれている。プログラムに必要な資金は国内企業の直接投資と外資による対内直接投資、さらに銀行融資によって調達することになっている。ウズベキスタンでは毎年、約 350 万 t の原綿と 100～120 万 t の綿繊維が生産されており、製造された綿繊維の約 60%が輸出向けに出荷されている。

第 10 回国際ウズベキスタン綿花・織物見本市がタシケントで開催され、その結果、合わせて 58 万 t のウズベキスタン綿繊維買付契約、さらに 10 億ドルを超えるウズベキスタン産織物製品の供給契約が締結された。今年は契約が締結された綿繊維買い付けの総量が昨年に比べて 17%減少した。現在、ウズベキスタン綿花の主要な需要家は、中国、バングラディシュ、トルコ、ロシア、シンガポール、韓国、そのほか東南アジアと南アジアの一連の国々である。

Rio Tinto がウズベキスタンで新たな銅探鉱作業対象鉱区を取得することを計画

これについては、Rio Tinto 中央アジア探鉱マネージャーであるガリ・ホジキンソン氏が、タシケントで開催された国際展示会 MiningWorld Uzbekistan-2014 の一環として開かれた国際会議「ウズベキスタン鉱物の投資収益力」で講演する中で伝えた。同社は銅探鉱プロジェクト・ポートフォリオを構成することにしており、ウズベキスタンの有望な鉱区を選ぶ機会を得ることを期待している。Rio Tinto は 2014 年 7 月、ナマンガ州（ウズベキスタン東部）の有望鉱区「ガヴァ」で銅探査ボーリングに着手した。2012 年 12 月、国家地質・鉱物資源委員会は Rio Tinto に有効期間 5 年の探鉱作業実施ライセンスを交付している。